

農事組合法人 大野瀬温(愛知県豊田市)

～ 楽しく続ける、温もりのむらづくり ～



軽トラの行けない農団地(ここも保安全管理している)



「大野瀬温」関係者 表彰式集合写真

背景

地域内の耕作放棄地の発生防止や農地の維持・管理、農業経営コスト削減を目的に、平成24年に設立。平成28年に法人化。

取組内容

- 6次産業化の取組として、道の駅や酒造メーカーと協定を結び、サツマイモと発酵用の米を栽培し芋焼酎「大野瀬温」を商品化、道の駅を中心に販売。
- 農業資材の共同購入・保管による経費節減、構成員所有機械の共同利用、高性能大型農業機械の導入などにより、作業効率の向上と計画的な機械作業を実施。
- 地域内の農地保全のため、水稻・イモ類の作付けや構成員の保安全管理により耕作放棄地の解消、耕作放棄地の発生防止や景観作物の植付けを実施。
- 大学のゼミ活動を受け入れ農村生活体験を実施、また学生と協力しサツマイモクッキー「おのせむすめ」を開発。

今後の展開

今後は大野瀬地区全世帯の組織加入を目指すとともに、市と連携した新規就農者の研修受け入れや新たな農産物加工所と農家レストランの経営、農村生活体験の受け入れ拡大などにより、後継者育成や地域外からの定住促進を目指す。

【写真で見る団体の取組】



「道の駅どんぐりの里いなぶ」等で販売されている黄金千貫を使用した芋焼酎「大野瀬温」



トマト研修農場「かしも健康とまと村」で研修生を受け入れ、就農支援も行う



耕作放棄地を解消し作物を作付けできる農地へ



耕作放棄地を解消した田(左写真の農地)で大学生が米作り体験



金城学院大学のゼミ活動を受け入れサツマイモ栽培の農村生活体験を行う学生たち



小水力発電機で充電したEV軽トラで野菜を運搬環境負荷軽減にも取り組む

農事組合法人 飛雪の滝百姓塾(三重県南牟婁郡紀宝町)

～ 被災を乗り越えた地区の力でむらづくり ～



「にほんの里100選」にも選ばれた
紀宝町浅里地区全景



飛雪の滝百姓塾関係者 表彰式集合写真

背景

地域を活発にしたいと思う者たちが集い、平成17年に「飛雪の滝百姓塾」を設立。平成23年9月の紀伊半島大水害により、当地区は甚大な被害を受けたが、被災直後からボランティアを始めとした、多くの方々の支援を受け復旧・復興に尽力。平成26年に法人化。

取組内容

- 平成26年に交付金を活用して集落を取り囲む恒久柵を設置、その維持管理を継続し、獣害が大幅に低減。
- 水稻の新品種「三重23号」を導入し、品質の向上とブランド化を達成、またそれを用いた郷土料理を販売することで、地区の活性化及び食文化をPR。
- 廃校施設を活用し、病院職員や大学生と連携して、災害時の医療対応や自然・里山保全を学ぶ「おもしろ大学」を開校、またSNSで活動内容を発信するなど、若者と関わる機会を拡大。
- 災害ボランティアを契機に、名古屋市の企業と農村活性化の協定書を締結、企業のCSR活動として各種ボランティア活動を実施し、都市と農村との交流活動を推進。

今後の展開

被災という逆境から復興した地域の団結力の強さで、各種活動に対し前向きな姿勢を維持していくとともに、豊富な地域資源を活用した自然体験を促進し、誘客による地域経済の活性化、都市農村交流の拡大などにより、移住・定住や地域活性化の向上を目指す。

【写真で見る団体の取組】



平成23年9月紀伊半島大水害(台風12号)
被災直後の様子



平成23年9月紀伊半島大水害(台風12号)
復旧後の様子



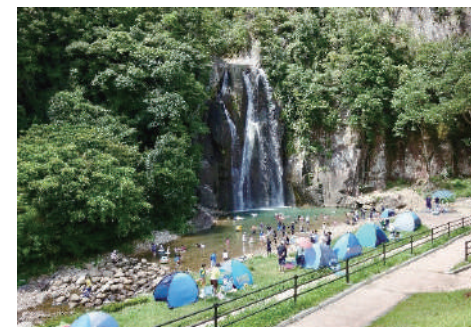
「農村活性化の取組に関する協定書」
岡谷鋼機株式会社との調印式



廃校を利用した「おもしろ大学」の開校式
地区外の若者と地区住民の交流の場となっている



CSR活動で侵入防止柵のつる除去をする
岡谷鋼機株式会社社員



観光客でにぎわう飛雪の滝キャンプ場